



落六

学校だより…571号
令和8年 3月 1日
新宿区立落合第六小学校
校長 百合野 壽郎
<http://www.shinjuku.ed.jp/es-ochiai6/>



出会い

副校長 原島 謙一

今月5日は二十四節気の啓蟄です。冬ごもりの虫が地上に這い出てくる時期になりました。朝晩はぐっと冷え込む日もありますが、日中の陽射しの暖かさには確実に春の訪れを感じます。

2月27日には6年生を送る会が行われました。全校児童が一堂に会して別れの名残を惜しむ機会となりましたが、一方で6年生の立派な姿や各学年のこの一年で成長した姿を見る素敵な時間でもありました。集団としての成長はもちろん、一人ひとりの子どもの成長や変化を感じることができました。

先日、6年生の卒業文集を読みました。思い出について書かれたもの、将来の自分に向けて書かれたものなど、それぞれの思いの詰まった作品でした。その時に思い浮かんだ歌があります。卒業式の定番ソングとして、中学校や高等学校で歌われている「レミオロメン」の「3月9日」という歌です。この歌は、元々作詞された、藤巻亮太さんが、友人の結婚式に向けて作ったそうです。発売された後、歌詞が、学校を巣立つ子どもたちの心情に沿ったものとして卒業式で歌われるようになったそうです。この曲に、「瞳を閉じれば、あなたが、瞼の裏にいることで、どれほど強くなれたでしょう。あなたにとって私もそうでありたい。」という歌詞があります。私は、この歌詞の部分に卒業・出会い・感謝という言葉を連想します。卒業文集に書いている子どもたちもきっと、この歌詞のように出会った人たちが心強い存在で学校生活を良いものにするのでしたのだと思います。

人生は、人との出会いによって大きく開かれることがあります。

ただの一介の浪人であった坂本竜馬が、赤坂氷川の勝海舟と出会い、歴史の表舞台で活躍できるようになったり、7年前にスケート人生をあきらめようとしていた木村龍一が三浦璃来に出会いオリンピックで金メダルをとるまでに成長できたりと、出会いの大切さを伝える話はたくさんあります。メディアによって紹介される人たちだけでなく、皆さんもそのような経験をおもちだと考えます。それとは逆に、人生を変える出会いがあったのに、それに気づけないということもあります。自分を生かしてもらえ人との出会いに気付けること自体が幸福なことなのかもしれません。

落合第六小学校を巣立つときに、一人でも多くの子どもたちが、よい出会いが重ねられるよう、引き続き教育活動に組んでいきたいと考えております。

この一年間、子どもたちの成長のために多くの皆様のお力添えを賜りました。西落合町会、地域協働学校運営協議会、保護者の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

卒業に向けて

過去や未来に囚われない「今ここ！」を生きている素敵な6年生と出会い、過ごした1年間はかけがえのないものとなりました。「今」を大切にすることで、どんなことにも前向きに取り組み、行事を乗り越える度に、大きく成長する姿が見られました。

物事の根にある考えや思いに目を向けられる素晴らしい6年生と、一緒に考え、伝え合い、もう一度考えて、深めて、そんな学びを繰り返すことで、私自身も子どもたちから学ばせてもらったことがたくさんあります。一日一日がかけがえのない宝物であり、このような機会を頂けて大変光栄です。残り少ない日数ですが、6年生の良さを更に伸ばし、達成感をもって卒業式を迎えられるよう指導してまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、6年間にわたる子どもたちへの見守りと本校の教育活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

6年1組担任

快晴の下、桜の花びらが舞う4月の出会いから、早いもので1年が経とうとしています。体育学習発表会、伊那移動教室、おちろく班活動、音楽会、音楽祭...など様々な場面で最高学年として、また、落六小の顔として下級生を引っ張っていく立場だった一年間。子どもたちは、自覚と責任、そして仲間との協力の大切さを学んできました。

登校日は残りわずかとなりますが、「自律」し、「感謝」を感じられる人で在り続けてほしいという想いを込めて、精一杯かかわっていきます。限りある時間を大切に、明るく・笑顔で・自信をもって卒業を迎えられるようサポートしていきます。

6年2組担任

🌸 1年間ありがとうございました 🌸